

中頭指導行政の基本方針
総括目標

最多・最大の最高を追求する中頭教育の創造

～地域に根ざし、共に子供の育ちを保障する、持続可能な潤いの「魅力ある学校」づくり～

育成をめざす資質・能力

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

国・県の施策

- 学習指導要領(平成29年)
- 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(国)
- 新・沖縄県21世紀ビジョン基本計画
- 沖縄県教育振興基本計画
- 「英語立県沖縄」推進戦略事業
- 学校教育における指導の努力点
- 「自立した学習者」育成プロジェクト(令和7年～9年)

重点目標

「個が光る」中頭の教育を共に創る
～誰一人取り残されない学びの保障～

重点事項

- 1 「わたったーわらびの学び」の保障
- 2 教職員の資質・能力の向上をめざす組織づくりの推進
- 3 カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

基本方針

- 1 教育活動全体を通じての国際理解教育の推進
- 2 小学校における外国語活動と外国語の充実
- 3 中学校における外国語(英語)教育の充実
- 4 帰国・外国人児童生徒教育の充実

取組事項

- 1 自国や外国の文化に対する理解を深め、異なる文化を持つ人々と協調して生きていく態度の育成
- 2 小学校において、学級担任や英語専科指導教員が中心となり、AETやALT等を活用したチーム・ティーチング等、指導方法の工夫
- 3 中学校において、小学校外国語と連携した系統的な指導
- 4 4技能による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能の育成
- 5 帰国・外国人児童生徒の組織的な支援・相談体制の整備

令和6年度の状況

- 生徒の英語力(英検3級以上)
中学3年生=34.6%(県38.1)
- 生徒の言語活動状況(32校中)
(授業の半分以上、言語活動)
中1=41%(13校)
中2=34%(11校)
中3=44%(14校)
- 英語の授業等におけるICT機器の活用状況(50%以上)
・学習者用デジタル教科書の活用=24校
・デジタルドリルや動画等のコンテンツの活用=19校
・1人1台端末等を用いた発表や話すことにおけるやり取り=15校
・発話や発音などの録音・録画=8校
・キーボード入力等で書くこと=15校
・電子メールやSNS、チャットを用いたやり取り=3校
- 教師の英語力(英検準1級以上)
全体=80名(63%)

国際社会に対応できるコミュニケーションを図る資質・能力の育成

目指す姿

- 広い視野を持ち、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質・能力の育成
- 小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての外国語(英語)に慣れ親しませ、外国語(英語)を用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験させるなど、中学校外国語(英語)教育との円滑な接続と学びの連続性を踏まえたコミュニケーションを図る資質・能力の育成

共通実践

学校の教育活動全体を通じて国際理解教育の推進を図る

- 各教科等の目標や内容との関連を踏まえた全体計画を作成し、学校教育全体を通じて国際理解教育に取り組む。
- 異なる考えや意見を受け入れるなど、相手を思いやる心の育成を重視し、それらを基盤とした取組を重視する。
- 特別活動や総合的な学習の時間等において、地域の外国人の活用や交流、JICA沖縄国際センターによる国際理解事業等の活用により、自国や諸外国の文化に対する理解を深め、異なる文化を持った人々と協調して生きていく態度などを育成する。

小学校における
外国語活動と外国語科の充実

中学校の外国語(英語)教育の充実

□実践計画

●Link-Up



- (小英語ステップアップ研修会)：小学校外国語教育における学習指導要領の着実な実施に向けて、小学校外国語活動及び外国語の授業実践等の充実を目指し、授業研究及び協議等を通して、小学校外国語教育に携わる教員の教科の専門性並びに指導力の向上を図る。→担任主導の授業・言語活動を通じた指導の工夫、教科横断的な視点での教材研究、小中連携による学びの連続性の意識等
- (中授業力アップ研究会)：学習指導要領の内容や全国学力・学習状況調査等からの課題を共有し、学校現場における効果的な授業づくりについて、「英語科授業づくり理論研修会」(指導主事・指導主事補・授業改善アドバイザー参加)において、理論をしっかりと学んだ上で、第2回の事務所単位での研修や、それ以後の各学校の授業実践につなげていくために、実態に応じた教科会支援を行う。→言語活動の在り方、ALTの強みを生かした授業への参画、小中連携、AI等デジタル技術の効果的な活用のあり方、MEXCBTを活用した「話すこと」「書くこと」の力の強化等
- (中STEP UP研修会)：専門家による評価方法やテスト作成を中心とした講話やワークショップを通して、英語科の授業改善・評価改善の充実を図る。→目的・場面・状況の設定及び効果的なパフォーマンステストの実施、業者テストで本当に測りたい力を測れているかの判断を教師自身がしっかりと行うこと等
- 「沖縄県小中学校外国語教育情報共有サイトLink-Up」を活用した実践収集・共有

関連
成果指標
目標値等

- ★県版児童生徒質問調査
- ★英語教育実施状況調査
- ★英検IBM結果
- ★検証改善サイクルシート
- ・授業改善が進んでいると実感している教師の割合
- ・英語の授業づくり及び生徒との授業を楽しんでいると回答する教師の割合
- ・「英語の授業がわかる」と回答する生徒の割合(県版)
- ・生徒の英語による言語活動の割合
- ・CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

教職員の資質・能力の向上をめざす組織づくりの推進

わたったーわらびの学び」の保障

カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

～「地域とともにある学校」づくり～

各学校の
取り組みを

しっかり

じっくり

たっぶり

をキーワードに

問い

対話

取り組みの共有・参考は

「わくどき なかがみ ポータルサイト」

